

彦名通信

No. 171
平成24年12月

デザコンA科チーム最優秀賞!



ヨット部(西尾写真左)国体優勝!! (写真右は境高校平岡沙希さん)



高校化学グラコン二連覇!!

CONTENTS

目次

イベント特集

- 高専デザインコンペティション..... 2・3
- 高専ロボットコンテスト..... 3
- 高専祭..... 4・5

クラス便り

- 2年学年主任より..... 6
- 2年機械工学科・電気情報工学科..... 6
- 2年電子制御工学科・物質工学科・建築学科..... 7
- 3年学年主任より..... 8
- 3年機械工学科・電気情報工学科..... 8
- 3年電子制御工学科・物質工学科・建築学科..... 9

クラブ便り

- ヨット部国体優勝..... 10
- 吹奏楽部..... 11

寮生会便り

- 寮行事紹介..... 11

トピックス

- オープンキャンパス..... 12
- その他トピックス..... 13・14

国際交流

- 技術英語研修・留学体験記..... 15
- アジアサイエンスキャンプ..... 15
- 編集後記..... 16

速報!

全国高等専門学校デザインコンペティション2012 in 小山

米子高専構造デザイン部門1位!連覇!6年連続大臣賞!!

構造部門:最優秀賞(国土交通大臣賞)・審査員特別賞/空間部門:優秀賞(2位)

■ 構造デザイン部門

最優秀賞 (国土交通大臣賞)

「ABS47号」

浦木博之 (5 A) 石賀恵太 (4 A)

渡部航大 (1 M) 高田穂乃香

坪倉那奈 宮坂杏菜 (以上1 A)

審査員特別賞

「撫子☆KTN」

足立恵里子 安達知里 (以上5 A)

岡崎椋平 藤原淳 藤山愛己

上田信良 (以上4 A)

■ 空間デザイン部門

優秀賞

「うつろいの砂」

清水優里 村尾太一 (以上5 A)

入選

「都市と森のカリカチュア」

林原孝樹 村上大昂

中田朋幸 (以上5 A)

「山と共に学ぶ」

松崎篤洋 高下義博 足立恵里子*

(以上5 A) *構造部門も出場

■ 環境デザイン部門

入選

「卵で生まれ変わるエネルギー循環モデルの提案～水と食生活を創り変えるために～」

渡邊健太 (S2 物質学専攻) 平岡拓洋

竹内祐太 松井郁也 (以上5 C)



国土交通大臣賞を受賞したメンバー

全国高専デザコン結果報告

建築学科 北農 幸生

11月10日・11日にかけて、栃木県小山市で行われた全国高専デザコン2012 in 小山において、米子高専は構造部門で最優秀賞(国土交通大臣賞、建築学科と機械工学科の協働チーム)と審査員特別賞(建築学科チーム)を、空間部門で優秀賞(建築学科5年生)を獲得しました。特に構造部門は、昨年引き続き2年連続日本一を達成しました。

今回のデザコンはメインテーマを「デザインが起つ」とし、豊かな生活環境を実現する「デザイン」について、あらためて深く考え、高専の総合的な技術力を社会に発信する場として開催されました。本選には、「構造部門」、「空間部門」、「環境部門」の3部門に建築学科・機械工学科・物質工学科の計24名の学生が参加しました。

構造部門では、これまでの競技方法とは違い、定められた荷重に対する安全性と経済性の両立を目的に、ひのき材を用いた橋の軽量化・デザイン性等を競い合いました。全国の高専から33校59チームがエントリーする中、米子高専から参加した2チームが、前回までの大会と同様に実力を十分に発揮し、それぞれ最優秀賞と審査員特別賞を受賞しました。

空間部門は「EARTHTECTURE 天と地の間に」がテーマで、土地固有の大地に根ざした建築をランドスケープと一体で計画することが課題でした。予選エントリー24校134作品の中から13作品(内米子高専3作品)が本選でプレゼンテーション審査を行い、鳥取砂丘での砂をテーマにした作品が優秀賞を受賞しました。また他2作品は残念ながら入賞には至りませんでした。

また環境部門も、物質工学科学生たちが予選を通過しましたが、残念ながら入賞には至りませんでした。

以上のように、本選に参加した3部門のうち2部門で優秀な賞をいただくことができましたが、残念ながら入選どまりであった学生たちも、本選にいたる直前まで、試行錯誤を繰り返し、名前があがっていない多くの学生たちの協力や教員の事前指導などの過程からも多くを学んだものと思います。

来年は、いよいよ米子でのデザコンが開催されます。せっかくの機会ですので、米子高専学生たちと他高専生と共に盛り上がる学習の機会としたいと思います。

構造デザイン部門

5A 浦木 博之(最優秀賞 国土交通大臣賞)

私は3年生の頃から構造部門に参加し、2年連続で優秀賞を獲得しましたが、悔しさが残りました。そんな気持ちの中、今年は自分がリーダーとなって「今年こそ最優秀賞を!!」という気持ちで取り組みました。

本選では設計通りの結果ではなかったのですが、少し悔しさが残りましたが、それでもやっと最優秀賞をとれて、ほっとしています。

来年は米子開催なので、今年以上に盛り上げて、4年生は、悔いの無いように取り組んでほしいです。今年参加してくれた1年生は、この経験を活かして、数年後には自分達の力で最優秀賞を獲得してくれることを期待します。最後になりましたが、今回このような賞を獲得できたのは、自分一人の力ではなく、周りの方々のサポートのおかげだと思います。本当にありがとうございました。



空間デザイン部門

5A 清水優里 村尾太一(優秀賞)

私たちは天と地の間には自然や時間などの「流れ」があると考え、鳥取固有の大地である鳥取砂丘にその「流れ」を感じられる空間を提案しました。審査では、時間が経つにつれて砂が積もっていき、空間も変化していくという所が評価され、優秀賞を頂く事が出来ました。最優秀をとれなかったのは悔しいですが、作品を認めてもらった事がとても嬉しいです。

私たちがデザコンに取り掛かったのは6月からで、ひとつの課題に対してこんなに長い期間取り組んだのは初めての経験でした。アイデアがまとまらず思うようにいかない時もありましたが、デザコンを通して他のチームとも仲良くなり、辛い中でも楽しんで取り組む事が出来ました。今回優秀賞を頂いたのも、たくさんの人たちの支えがあったからだ強く感じます。デザコンメンバーはもちろん、先生方、友人、後輩、そして家族に本当に感謝しています。ありがとうございました。



高専ロボットコンテスト2012中国地区大会結果報告

高専ロボコン2012中国地区大会結果報告

機械工学科 矢壁 正樹

高専ロボコン2012は10月7日(日)米子産業体育館で行われました。米子高専からは校内予選を勝ち抜いた機械工学科の2チームが代表として出場しました。AチームのロボットはALRUN(オーラン)、Bチームのロボットはテトラと名付けられました。3連続の中国地区大会優勝をめざして、学生達は夏休みを返上して設計製作に励みました。大会結果は学生の記事に任せますが、3年連続優勝は残念ながら果たすことができませんでした。地元開催ということで、学生達も頑張っていたのですが、思わぬマシントラブルが出てしまいました。しかし、今年是一年生のロボコンチームへの参加が7人と例年に比べて多いため、今後の成長に期待しています。最後になりましたが、いつもロボコンに応援をして下さる後援会、振興協力会の方々に厚く御礼申し上げます。また、来年も機械工学科チームは頑張ります。



中国地区大会を終えて

5年 機械工学科 對馬 伸幸

私はAチーム(ロボット名:ALRUN)のリーダーとして大会に出場しました。今年のロボコンは、『フィールドに散らばったボールを拾い、ゴールに入れる』という競技だったので、『フィールドを縦横無尽に移動できて、遠くからでもゴールを狙える二足歩行ロボット』をコンセプトにロボットを製作してきました。しかし、新たな歩行機構やボールを精度よく飛ばすための機構の開発が思うように進まず、大会直前まで調整をするという状況で、結果1回戦目敗退となってしまいました。地元開催で、中国地区大会3連覇の期待も掛かっていた大会だけにショックはとても大きく、応援して頂いた方々に申し訳ない思いでいっぱいでした。

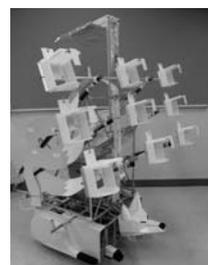
現在、下級生は、早くも来年に向けて各々の技術開発に取り組んで頑張っています。今年是全国出場を逃しましたが、来年こそは後輩たちが全国出場、そして優勝を勝ち取ってくれることと期待しています。最後に、大会運営に協力して頂いた関係者の方々や応援をして頂いた方々に深く感謝致します。これからも応援よろしくお願ひします。



中国地区大会を振り返って

5年 機械工学科 西尾一希

Bチームのロボット(テトラ)は地区大会の初戦(対津山高専B)で満点を獲得し勝利することができました。この調子で、優勝できるかもしれないと思いましたが、準決勝(対松江高専B)で負けてしまいました。敗因は、今までに起きたことなかったマシントラブルが発生したためでした。試合に負けたことよりも、ロボットの不安定要素を取り除くことができなかった事に悔しさが残りました。チーム全員で作上げたロボットで大会に出場できたこと、そして試合を楽しめたことに満足しています。最後に、応援をして頂いた後援会の方々、職員の方々、指導して頂きました先生方に深く感謝致します。



第49回 高専祭「COLOR～アナタイロ～」

学生会長 植田 健斗

11月2日、3日の2日間にわたり高専祭が行われました。悪天候が予想されましたが、2日も天候に恵まれ、最高の高専祭になりました。この高専祭を通して「みんなでひとつのものを作り上げる楽しさ」を学ぶことができました。私は、昨年まで高専祭の運営に深く関わったことがなく、高専祭をやり遂げられるか不安でした。

今年の高専祭のテーマ「COLOR～アナタイロ～」を決める際にも、自分ひとりでは意見がまとまりませんでした。副会長や実行委員長、学生会員に協力してもらいテーマが決まり、本当に素晴らしい高専祭にすることができました。学生会員のみんなには感謝の気持ちでいっぱいです。また、高専祭期間を通して、クラスメイトや学生会員をはじめ、今まで以上に友情が深まったと感じています。学生の皆さんにも、思い出に残る高専祭になったのではないかと思います。最後に、高専祭を開催するにあたってご協力・ご支援いただいたスポンサーの皆様をはじめ、教職員の皆様、学生の皆さん、学生会員のみんな、そして高専祭に足を運んで下さったすべての方々はこの場をお借りしてお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

学生会副会長 吉田 千紘

11月2日と3日の2日間にわたり第49回高専祭が行なわれました。今年の高専祭のテーマは「COLOR～アナタイロ～」でした。一年で一番のイベントである高専祭で自分らしく楽しみ、今年にしか出来ない思い出を学生一人一人が作り、それに色をつけて欲しいという思いを込めてこのテーマにしました。私にとって今まで経験した高専祭もそれぞれ印象深く、充実したものでしたが、特に今年は学生会の中心で活動してきたということもあり、みんなで1つのことを達成出来、みんなで沢山笑ったように思えます。高専祭が終わった今、学生皆さんが過ごした2日間はどうのように心の中にあるか私にはわかりませんが、この大きな出来事をずっと大切にしてほしいです。

また、私はパンフレットとポスターデザインも担当しました。デザインは白い背景に色鉛筆を並べるだけのシンプルなものにし、色を特定しないようにしました。自由に好きな色で書き込みや落書きなどをして頂けていたら嬉しく思います。スタッフTシャツの色もテーマを意識して47人それぞれ違います。気がついて頂けたでしょうか。学生会も一人一人の“COLOR”が違い、高専祭期間で沢山の学生や来場された方々と関わることで自分達の“COLOR”もよりよいものになったのではないかと思います。今年の高専祭が後輩達に刺激を与え、来年やその先に繋がっていくことを願っています。

最後になりましたが、今年の高専祭に協力して頂いた、スポンサーの方々、地域住民の方、先生方、各企画代表者の方々本当にありがとうございました。来年もよろしくお願いします。



科展



4M



4E



4D



4C



4A

M 今年のM科展のテーマは蒸気エンジン

4M 谷村幸太

私たち機械工学科4年生の学科展示は蒸気エンジンを動力としたミニカーの製作です。夏休みから製作を開始し、完成までには図面作製、旋盤やフライス盤などを使った材料加工、寸法精度の悪い部品の再加工などを行い、各部品を組み立てていきました。蒸気エンジンは繊細で、途中何度も調整しないと動かなくて苦労しました。蒸気を発生させるためのボイラーについては蒸気が漏れたりして密閉するのに手間取りましたが、なんとか完成させることができました。当日は、来て頂いても動かない時もあり、もっと改善すべきところは山ほどあったりしました。またこのような機会があればもっといいものを作りたいと思います。色々ご助言を頂いた機械工学科の先生方、ものづくりセンターの先生方ありがとうございました。

E 科展をして

4E 清水 優

4年電気情報工学科は今年の科展でLEDアート、テトリス、スピーカーの三つの企画をすることにしました。私はLEDアートの班でした。LEDを使って月とウサギを作りました。班の人みんなが授業で習ったことや本やインターネットで得た知識を出し合って作りました。しかし実際作り始めたら授業で習ったことと作業内容の差が大きくてとても戸惑いました。夏休みから作業を始めたのに完成したのが当日でした。そのため完成度も低く科展に来てくださった方々に楽しんでもらえるかとても不安だったのですが、初日からたくさんの方が来てくださってとても達成感がありました。今回の科展を通して電気の楽しさやみんなで作業をする楽しさを再認識できました。この経験を今後の学校生活や企業に就職したときに役立てたいと思います。

D 高専祭を終えて

4D 亀井千佳良

今回私たちは「子ども達に興味を持ってもらう」ことをテーマに科展をしました。そこで私たちはロボコンで作製したロボットを子どもでも簡単に操作できるように改造し、プロコンの作品を展示し体験できるようにしました。また、有志の学生によるマイコンのプログラム体験コーナーを作るなど、とにかく体験できることを重視しました。

その甲斐あってか、高専祭の2日間で約780人の方に来場していただけました。特に2日目は子どもたちが多く、中には気に入って何回もロボットを動かして来てくれる子もいました。かわいい。

最後になりますが、今回の科展に協力してくださった多くの先生方、学生、そして来場して頂いた方々に深く感謝します。

C 高専祭を終えて

4C 武良 亮介

今年の科展は5つの班に分かれ実験を行いました。昨年とは、異なりひとりひとりの仕事や負担が大きかったように思います。各班の中で実験をどう成功させるか、どう来場者の方々に喜んでいただけるかなど試行錯誤していました。自分たちの班は鏡を作るという実験でしたが、なかなかキレイな鏡を作ることができず、一時は実験を諦めようという話もありましたが、最後の実験でキレイな鏡を作ることに成功しました。高専祭当日には、たくさんの来場者に来ていただきました。来場者の方々と一緒に鏡を作り、できた鏡に驚いている姿や喜んで見ている姿を見て、諦めず実験してきてよかったなと思いました。最後に、薬品や物品の準備をしていただいた先生方ありがとうございました。

A 茶室空間と照明

4A 石賀 恵太

建築学科は「組子細工」をテーマに取り組みました。私たちは工芸品として障子やランプシェードに用いられる組子細工に挑戦して、茶室空間と影絵照明、サッカーボール状の形の照明を5つ作りました。

茶室空間の床は畳を二畳敷き、壁は組子細工で装飾した障子とバルサ材の網目で構成しました。茶道部による点前も企画して、来客に楽しんでいただきました。

照明の外見は迫力のあるものを目指し、影絵照明は影のモチーフを鹿、太陽、松、雲として組子細工で表現し、壁に映し出しました。精巧な組子細工を製作するために、夏休みからクラス全員で取り組み、作りあげた作品でした。多くの来場して下さった皆さん、ありがとうございました。

2年

学年主任
電子制御工学科
中山 繁生

10月18日(木)から19日(金)にかけて、2年生は島根県大田市にある三瓶青少年交流の家で校外研修を行いました。この研修は技術者教育の一環として、歴史・産業・文化の地を訪ね、地域の自然に触れることで環境に関する知識を深めることなどを目的に毎年実施しております。交流の家では、ドッジビーやキンボールの他に、サイクリングや登山、そして野外炊飯をおこなったクラスもありました。(D科とC科はしまね海洋館アクアス、A科は石見銀山にも訪れました。) 様々な行事を楽しむ傍ら、学生の中には、入浴・点呼・消灯など時間が決められている生活や、自分たちが利用した部屋・トイレ・風呂などを清掃しなければならない生活に、少々窮屈さを感じる者もいたと思われませんが、クラスメイトとの共同生活と共同作業ができたことは、とても貴重な体験であったと思います。

次に11月2日(金)から3日(土)にかけて、文化祭(高専祭)が開催されました。2年生の各クラスはそれぞれ食べ物を販売する模擬店を出店しました。当初は天候が心配されましたが、どのクラスも無事に企画を終えることができたと思われます。

10月中旬から11月上旬にかけての学校行事を通じて、各クラスにおいては学生同士の団結力がより強くなったと思われます。



校外研修

藤澤 康太

僕たち2年機械工学科は、10月18~19日の特別行事に三瓶山に一泊二日の校外研修に行ってきた。宿泊と活動を行った国立三瓶青少年交流の家は、下は幼稚園から上は社会人まで、遠いところでは大阪から、様々な人が様々な所から宿泊に来られていて、このように自然と触れ合うことのできる環境が貴重であると感じました。

僕たちは三瓶山で、サイクリング、ナイトハイク、野外炊飯(バーベキュー)を行いました。特に野外炊飯では、前日

に行った他学科で火が着きにくかったそうなので、職員の方の配慮もあり、乾いた薪を使うことができ、とても順調に行うことができました。自分たちの炊いたご飯も肉もおいしく頂きました。自然の中での食事にとってもフレッシュできたように思え、有意義で楽しい研修でした。

高専祭

山根 翔太

今年の高専祭で2Mはマシュマロ豆乳鍋をすることになりました。マシュマロ豆乳鍋とは、アニメ“けいおん!”で登場した創作料理です。インターネットで“マシュマロ豆乳鍋”と調べてみたところ、意外においしいという感想があったので高専祭でやってみることにしました。クラスメイトは誰一人、見たこともなく、食べたこともなかったので、何度も試行錯誤してクラスのみんがおいしいと言ってくれる味にするまでがとても大変でした。高専祭前日からクラスメイトが協力し合って準備をして、高専祭当日では、シフトに入ったクラスメイトが積極的に声掛けや売込みをしてくれたおかげで目標の数を販売することができて本当によかったです。後片付けも全員が協力してくれて、すごく団結ができた高専祭になりました。来年もこのクラスメイトと一緒に楽しい高専祭にしたいです。

機械工学科

電気情報工学科



校外研修

長谷川卓也

校外研修で僕たち2Eは、まず男三瓶山へ登山に行きました。登山道は思ったよりかなり険しかったけど、みんなで励まし合うことで苦しくも楽しく登ることができました。頂上からの景色は格別で、最高のご褒美でした。その夜はサハメルでの天体観測に行きました。雲がかかってきれいな星空を見ることができなかつたのですが、素晴らしいプラネタリウムを観賞できてよかったです。2日目はキンボールとバーベキューをして、普段はほとんど話さないクラスの人も自

然と会話が弾んで交流を深めることができました。みんなで笑いながら食べたバーベキューは最高でした。

今回の校外研修での体験を通じて、自分の心の中でのクラスに対する思いがもっと強まりましたし、またクラスの皆が心をつなぐことによって、このクラスの絆がさらに深まったと思います。

高専祭

小西 那奈

今年の高専祭では、2Eはフレンチトーストを企画しました。うまく作れるのかなあと少し不安がありましたが、試作品を食べてみるとあまりのおいしさにびっくりしました。当日、実際にお客さんにもとても好評で、この企画にしてよかったと思いました。

この高専祭では、クラスのみんそれぞれが、自分の役割を自然とバランスよく見出し、率先して行動してすごいなあと感心しましたし、私も見習いたいと思いました。また、高専祭というイベントの空気にいい意味で吞まれることで、今まであまり話したことのなかったクラスメイトとしゃべれたり、お互いのことを知ることができました。2Eは、この高専祭でさらに団結を深めることができたと思います。これからもクラスの団結をさらに深めて、楽しい思い出をたくさん作っていききたいと思います。

電子制御工学科



アクアスのバックヤード見学 清水 航

2Dは研修旅行2日目にアクアスに行きました。特に今回は、普段見れないバックヤード見学してきました。

見学ではまず、厨房に行き、飼育している魚にどんなえさをやっているのかを見ました。えさは、種類や大きさを魚によって変えていることがわかりました。例えば、大きさは同じ魚でも一匹まるごとだったり、細かく切ったりと変えてありました。

次に、展示水槽の裏側を見に行きました。まず、「神話の海」を水槽の真上から見ました。その後、「神話の海」の水槽のす

ぐそばにある、表に展示されていない水槽を見ました。そこには、稚魚や、病気の治療中の魚がいました。

見学が終わった後、もう一度展示水槽を回ると、魚がどう飼育されているのか想像できるような気がしました。今度こういう機会があったら、また見てみたいと思いました。

高専祭

米塚 里奈

2Dはアイスクリームの販売をしました。売り上げが天候に左右されるので不安でしたが、チラシを配ったり、ポスターを作ったり、宣伝をしてくれたおかげで大成功でした。途中でアイスやトッピングがなくなったとき、学校からスーパーまで遠いのに、進んで買い出しに行ってくれた人がいてとても助かりました。高専祭前と比べて、クラスの雰囲気良かったような感じがします。高専祭の準備で、ふだん話さない人も一緒に作業をしたり、話し合う機会があったことで仲良くなったのだと思います。

私は高専祭実行委員でしたが、部活があったので、あまりクラスの企画を手伝ったり、指示することができませんでした。いろんな人に迷惑をかけたと思います。ハプニングがたくさんあったけど、みんなが助けてくれたのですごく嬉しかったです。

2Dのみんなは優しいし、協力してくれるし、本当に良いクラスだと思います。来年もこの調子でがんばりたいです!

物質工学科



校外研修旅行 坂根すす香

今回の校外研修では、新しいものにたくさん出会えました。例えば、プラネタリウムです。今まで見たことのない本当の空を体験できました。アクアスでは裏側をのぞくことができました。従業員さんの魚たちを大切に思う気持ちを感じることができました。さらに、この校外研修では、協力して行う企画が多数ありました。そのため、今まで話したことがない人と話せるようになったり、仲の良い友達との仲をより深めたりすることができました。野外炊飯では少人数の班で行ったため、自分がすべきことを考えて、友達手伝いに動く姿もたくさんありま

した。キンボールでは楽しく助け合い、笑顔も広がりました。

思い返すと、校外研修は意味のあることばかりでした。なおかつ楽しみながら行えたので、良い研修だったと思います。もうすぐ高専祭です。クラス企画など大変だと思いますが、実行委員に全てを任せるのではなく、今回のように協力していきたいです。

高専祭

山本凌太郎

今年の高専祭では初めて飲食料を扱いました。パンケーキが売れるかどうか不安な状態で準備をしていました。準備では各リーダーを中心に活動し、特に女子がメニューや調理に関しては完璧にこなしてくれたので、わりとスムーズにできました。初日は平日だったこともあり、なかなかお客さんが来ませんでした。その一方で、歩き売りが順調に売れたのでよかったです。2日目は、午前中が暇だったのでシフトはなかったけど手伝いにクラスに行って、レジや受け付けをしました。前日とは大きく異なり、いくらパンケーキを焼いても追いつかないくらいでした。9時半過ぎから昼頃まで休みなしで働き、常に満席に近い状態だったので良かったです。でも、ハンパなく疲れました。歩き売りも意外と難しく大変でした。衛生面や接客態度も徹底してできたのでよかったです。

建築学科



校外研修を終えて 山崎 美沙

石見銀山では、親子格とかの工夫で昔の人の暮らし方とかは、よく考えて住みやすいようにしてあったんだと知ることが出来ました。今ある当たり前の家づくりなども昔ではなかったものがたくさんで、その当時の人の工夫がすごいと思いました。その町並みにあわせて、今でもたくさんの工夫がしてあって、電線が地下を通っていたり、自動販売機も和風になっていてびっくりしました。ところどころにあるお店も、昔っぽさを感じることが出来て感動しました。歩いて進めば進むほど良さを感じることが出来て、もっとたくさん見たいと思いました。バスの中でも友だちとたくさん話したりして、楽しむことができました。

三瓶山では、1日目は寝泊まりするだけでしたが、クラスの女子

みんなで1つの部屋に集まって、たくさん話をして、仲良くなれて、もっとこのクラスが大好きになりました。他のクラスの子とも今まで話したことがなかった子と、たくさん話したりすることができて、本当によい思い出になりました。

ナイトウオークでは、暗い山道が少し不気味だったけどクラスの人たちと話しながら歩くのは本当に楽しかったです。終わってからも他のクラスが室内に帰っていく中で、2Aはまだみんな残って遊んだりできてすごく良いクラスだな、って思いました。

野外炊飯では、班の人たちと協力して作業するのがすごく楽しくて、BBQとか本当においしくて、施設の方も親切で、これもよい思い出になりました。

ドッジビーもクラスみんなで仲良しだと実感できてよかったです。

高専祭を終えて

土山 楓太

準備の時は、段ボールを集め、看板を作りました。高専祭1日目は、シフトの変更と、営業時間の変更により、仕事がなかったので、2日目は1日中仕事をしていました。

仕事の内容は、モッフル(クスの出し物:ワッフルをお餅風に焼いたもの)を焼いたり、生地をこしらえたりしていました。材料がなくなったときは買い出しに行ったりしました。

他のクラスの出し物では、毎年恒例のたこ焼きや、いろいろなものがありました。ひとつ心残りがあるとすれば、高専クジに当たらなかったことです。

3年

学年主任 一般科目
蔵岡 誉司

3年生は10月17日(水)から21日(金)の2泊3日の日程で、工場見学旅行に行ってきました。見学先は各学科の専門科目の内容に関連した工場、建設現場そして文化施設等でした。学生にとっては学校での授業や教科書を通しての知識を超えた、実践的・先進的なものづくりを肌で感じる機会になったことと思います。

3年生は、本科での学生生活の折り返しの時期にあります。そして、やや目標を見失いがちになる学年とも言われています。今回の工場見学旅行を機に、3年生諸君には再度、ものづくりを担う技術者たらしめる気概を持って、残りの学生生活を有意義に過ごしてほしいと願っています。

一方、自主的活動は学生生活の中での大切な要素です。高専祭では、各クラスとも模擬展やお化け屋敷の企画で協力しあいました。遅くまで実行委員が企画内容を相談している姿も見られました。学生は今後どのように成長していくだろう、といった期待を感じさせてくれる機会になったと思います。



工場見学旅行について

角 聖哉

私は今回の工場見学旅行で、JFEスチール、三菱自動車水島製作所、三菱重工高砂製作所、鶴見製作所京都工場の4つの工場を見学しました。どの工場も私の思っていた以上に規模が大きく、構内をバスで移動しないと全部を見て回れないほどの大きさでした。

今回見学した4社の中で私が一番興味を持っていたのが、JFEスチールでした。JFEスチールは、主に製鉄を行っている会社で、今回見せて頂いたのは厚板圧延工場でした。そこでは、高温に熱された分厚く大きな板が流れてきて、それがローラーを通り薄い板に引き伸ばされてい

ました。ローラーを通るときに水が勢いよく噴射され加工されていくのは圧巻でした。

今回の見学で印象に残った言葉は、「JFEスチールの基本理念である「安全はすべてに優先する」という言葉です。これを聞いて、何に対しても安全管理が必要だという事を改めて感じる事が出来ました。今回の工場見学旅行は私の将来に役の立つ体験になりました。

高専祭について

新井 蓮

今回の文化祭では去年と同じくチュロスを販売しました。去年は400本を即日完売できたので、今年は200本増やして600本売ることとなりました。価格的には昨年よりやや下げた設定としていました。文化祭1日目、この日は平日ということもあり、始めからあまり売れるとは思っていませんでした。案の定、この日は1150本くらいしか売れず残り450本といった在庫を抱えて2日目へ。

2日目の午前中で資本金分は取り戻すことができましたが、それ以降あまり伸びる気配がなく、午後に入ってしまうその時点で200本くらいまだ余っていました。文化祭の終了時間が迫る中、売り上げはそれなりに出たのだからそろそろ値下げをしようということとなり、値下げをしたところ売れ行きは好調となり、成功をおさめることができました!

楽しい時間になって良かったと思います!クラスとしてモノを売る楽しさ・難しさを肌で感じられて良かったです。

機械工学科

電気情報工学科



工場見学旅行報告

平賀 克己

電気情報工学科3年生は、工場見学旅行で3つの工場と1つの発電所を見学しました。

最終製品の大きさが全く違うこともあって、ぼくたちが訪れた工場の間には明らかな規模の差があるように感じました。製造ラインの見学中にぼくが面白いと感じたのは、規模が小さくなるのに合わせて従業員の皆さんの目線が穏やかになるという発見でした。これが社

風というものなのかと実感し、将来自分が所属する未だ見ぬ職場を思い描いて、ドキドキしていました。考えているうちに、実際の就職ではなかなか社風を感じる機会がないことに気付き、やはりドキドキしました。

発電所見学では、「熱効率が世界最高水準」「所内に蛍が飛び交う川を設けている」などというお話以上に、桃太郎マークに興味を持ちました。昔話に関する絵をそれぞれの発電機に標示し、社員の間違いを防ぐ取り組みのことです。ミスをなくすため具体的に取り組んでいるのを見て、さすがプロだなと感じました。

高専祭

阿部 舜也

3Eはバナナジュースの販売を行いました。高専祭1日目は肌寒く雨も降っていたため思うよう売れず心配でしたが、クラスで協力し販売方法を工夫することで2日目は無事に完売することができました。

自分たちで準備し、協力して完売できたことはとても貴重な経験となりました。

ジュースを販売するに当たり多くの方に協力していただき、本当にありがとうございました!

電子制御工学科



工場見学をして感じたこと 山根健太郎

今回の工場見学旅行では、古野電気三木工場、関西リサイクルシステムズ、三菱重工神戸造船所の三ヶ所の工場を見学しました。古野電気では工業製品でも作るものによっては手作業の方が臨機応変に対応できることを学びました。関西リサイクルシステムズでは製造の逆の工程である分解をする所を見学できて新鮮さを感じました。三菱重工で印象に残っていることは工場の圧倒的なスケールの大きさでした。とても大きな建物がいくつもあり、その中では二階

建ての建物と同じくらいかそれ以上も高さがあるディーゼル機関を製造していました。こんな大きなものが動いているところを想像すると、とてもワクワクしました。仕事の区切りにはチャイムが鳴り、球技大会や地域活動などあっても学校に似ているところもあると聞いて、企業に対してのイメージが変わりました。今回の工場見学で就職して働くということがどんなものかというイメージが少しつかめて良かったです。

工場見学旅行に参加して

矢口 由季

私達3年生は10/17～10/19に、工場見学旅行に参加しました。企業の技術力の高さを間近で見て、その技術に驚くとともに私達がこのようなものづくりを担っていくんだということを実感しました。見学の中で印象に残っているのが企業の方の心遣いです。私達がわかりやすく見学できるように資料をくださったたり、移動の間に就職先の選び方や高専の卒業生をどのように採用するか、どのような人材が欲しいかといった話をしてくださったりと、私達の為になることが学べるよう工夫をしておられて、充実した見学ができました。また、見学の日は雨が降っていたのですが私達が濡れないよう企業の方々傘をさしてバスまで道を作って下さいました。今回の見学で、会社の経営や技術、採用について学ぶことができたのはもちろんですが、心遣いについても学べたように思います。これからのために色々なことを多く知ることができ、有意義な時間を過ごせました。

物質工学科



工場見学感想 竹内 和也

今回、私達物質工学科の学生は花王、SUNTORY、ダイキンの三社を見学させていただきました。

三社共私達の生活に親しみのある製品を製造されておられました。どの企業も自社の製品、技術を説明していただく際、花王では今話題とされているIpadを用いて、学生に楽しく深く理解してもらおうと遊び心のあるわかりやすい説明でした。SUNTORYでは、工場の中に入りビールの製造過程を実際に目で見て感じる事ができました。また、ダイキンでは従来の製品と現在の製品を用いて、どこが変わりどこが良く

なったのかの違いを比較してわかりやすく説明していただきました。今回の工場見学では、どの企業も高い技術と生産性、従業員の意識の高さがさすが日本を代表とする大手企業だと感じさせられました。また、質問コーナーの際には、学生の質問に親身にわかりやすく答えてもらえました。高専卒の先輩方もおられ、企業に入ってから生活や、高専在学中の就職か進学かの選択時の自分考えなど、今現在、私達が悩まされていることのアドバイスを教えていただけました。たった三日間でしたが、これからの将来の自分のために活かしていける充実した工場見学でした。

高専祭感想

大江 達也

高専祭実行委員を務めることによって、約2年半の学生生活で初めてみんなをまとめる役になりました。楽しそうだからなんとなく立候補したのですが、実際にやってみるとものすごく大変でした。自分の勝手な判断で生徒会の方々に迷惑をかけたたり、みんなの仕事やクラスTシャツのデザインなど、考えること、しなければならぬことが山ほどありました。

僕は普段アルバイトをしていて、その内容は上司から指示された仕事をひたすらやるというものです。もちろん指示を受けて仕事をするのはとても大変なことですが、今回の経験で人の上に立つことの難しさが少しだけ分かって、とても勉強になりました。この経験はこれから社会に出て働いていく中で必ず役に立つと思います。

簡単に建つだろう」と思っていたのですが、実際の現場を見て、大勢の方々関わっている大変な仕事なのだということが分かり、とてもやりがいのある仕事だということを実感しました。

高専祭感想

野津美晴/石原優奈

●「またお化け屋敷したい!」これで全てが始まりました。1Aと合同で、四階丸ごとお化け屋敷という、今までにない大規模なものになりました。

前日の夜、図面で想像するだけだったお化け屋敷が現実のものになって広がり、何とも言えない思いが込み上げてきました。当日はハプニングもありましたが、盛況となり「大成功」と自信をもっていえる結果で終えることができました。

今回、不安を感じながらの実行委員でしたが、今回あらためてこのクラスの良さに気づくことができました。

●初めて高専祭実行委員をしました。企画は1Aと合同のお化け屋敷です。当初、80人をまとめること、先輩後輩の上下関係のこと、本校史上最長のお化け屋敷をつくる準備のこと等、不安や心配は多くありました。しかし、みんなで協力して準備をするうちに、「大丈夫」と思えるようになりました。

当日、予想以上の盛り上がりとなり、怖くて泣く人や、笑ってくれる人など様々な反応があり嬉しかったです。

実行委員の仕事は大変でしたが、達成感と充実感を感じることができました。

建築学科



研修旅行を終えて 景山 亮

9月17日からの研修旅行の初日に大林組の建設現場に行きました。株式会社大林組はスーパーゼネコンの一つで、建築技術の開発においても国内トップクラスにあります。見学先の建設現場は神戸市内で最も高い高層ビルで、仕上がり周辺の現場を上層階から地下まで見る事ができました。特に免震構造の仕組みは学校で未だ勉強していない工夫がされていて、私たちは現場の方の説明を真剣に聞いていました。現場の社員の方も親切に教えて下さいました。私は以前、テレビで高層ビルの建設が行われている様子を見て、「ビルなんて

祝！ヨット部国体優勝！！

祝！ヨット部国体優勝について、特集を組みました。

第67回国民体育大会（2012ぎふ清流国体）

セーリング競技 少年女子セーリングスピリッツ級で優勝

ヨット部顧問 細田 智久

10月4日から7日にかけて愛知県蒲郡市海陽ヨットハーバーで行われていた第67回国民体育大会（2012ぎふ清流国体）セーリング競技において、米子高専ヨット部の電気情報工学科3年生西尾知美さんと境高校3年生の平岡沙希さんの2人によるチームが、少年女子セーリングスピリッツ級で優勝しました。レースは、全国から28チームが参加し、4日間で計6レースが行われました。1日目は5位でしたが、2日目が終わった時点で1位になった後、最終4日目の第6レースを5位でまとめて優勝できました。この成績もあって、鳥取県選手団はセーリング競技の女子総合成績でも第4位に入賞しました。さらに米子高専ヨット部の物質工学科5年生の平岡拓洋くんや機械工学科1年生の平岡哲磨くんらの活躍もあって、鳥取県選手団はセーリング競技では男女総合成績第8位入賞も獲得することができました。

ヨット部コーチ 松本 充

今回、西尾さんの出場したのは2人乗りの種目です。彼女の主な役割はヨットの前方に付いているセール（帆）の操作、ヨットが傾かないようバランスをとること、気象状況、海面の状況、他のヨットとの位置関係等から、自分達のヨットの進むべきコースを考えることです。特に強風時は体力的にきつيناなかで、冷静な判断が求められます。更に、ヨット競技の場合、海へ出してしまうと監督、コーチからの助言は得ることができず、自分達だけで考え判断しなければならないためとても重要な役割です。今回はスタート等で失敗しても、落ち着いた判断で順位を上げていき、大きく崩すことのない確実なレースができたことが優勝へつながりました。

3年電気情報工学科 西尾 知美

国体本番は、今までのレースと違って緊張していませんでした。私たちが緊張しないように気をつかってくれた周りの方々に本当に感謝しています。このおかげもあり、海に出てからも私と境高校の平岡さんの2人ともリラックスしていました。「レースは楽しむものだ」と監督やコーチからいつも言われていましたが、今までのレースでは楽しかったことは1度もなかったです。ですが、4日間の国体期間中は得意な風・苦手な風と様々な条件でしたが、1レース・1レースを楽しむことができました。

平岡さんと2人で臨んだ国体を前に2人で決めていたことがありました。それは「国体の最終レースをフィニッシュするまで泣かない」ことでした。最終日になるまで泣きそうになる時は沢山ありましたが、そんな時には2人で決めたことを合い言葉のようにしていました。最終レースをフィニッシュして、岸壁で応援してくれた監督・コーチ・先輩・部員などの人たちの姿を見た時、涙があふれてきました。国体で優勝することができたのも、今まで支えてくださった方々のおかげです。この方々へ恩返しをするためにも、これからもヨットを続けていこうと思います。



レース中の様子



国体1位の賞状(左が西尾さん)



校長への報告会の様子

吹奏楽部顧問 山田 祐司

●松江高専の文化祭に出演

10月7日(日)に松江高専の文化祭に出向き、松江高専吹奏楽部との合同演奏を行ないました。松江高専吹奏楽部が3曲演奏した後、両校の合同演奏で2曲を演奏しました。(テレビCMオンパレード、オーメンズ・オブ・ラブ:指揮は山田)合同での練習は本番前の20分だけでやや苦しい部分もありましたが部員数の少ない本校の部員にとって総勢50人ほどとなった合同演奏は大変刺激になったと思います。

演奏後は、松江高専の高専祭の展示を見たり、模擬店を回ったりしました。松江高専は高専祭と同日に保護者懇談会を開催しているためか、保護者の方が多数いらっしゃたのが印象に残りました。2枚目の写真は展示されていた斜張橋を自動車が渡っているところです。



●弓ヶ浜小学校音楽の夕べで演奏

11月10日(土)に弓ヶ浜小学校で行われた第28回音楽の夕べに参加しました。この催しには平成16年からずっと参加させていただいています。高専単独で2曲(テレビCMオンパレード、君の瞳に恋してる)演奏した後、弓ヶ浜中学校吹奏楽部との合同で2曲(ディズニーキングダム、女々しくて)演奏しました。弓ヶ浜小学校の児童や保護者を中心とする200人ほどの聴衆に楽しんでいただきました。

寮生会便り

高専祭を終えて

3E 土師 弘之

今年度の高専祭は、前日に雨と強風にふかれ無事に行われるのか不安でしたが1日目、2日目ともに寒くはありましたがよい日和に恵まれました。今年度は1日目平日、2日目休日で1日目の売れ行きが心配でしたが予想を超える売れ行きとなりました。2日目は1日目を遥かに超える人の数でたこ焼きを作るスピードが販売のスピードに追い付かず、多くのお客様を待たせてしまったことを申し訳なく思います。ですが、最終的には予想を超える売れ行きで材料が先に無くなってしまい、完売という形で高専祭を無事終えることができました。

たこ焼きを作るにあたって協力してくれた1・2年生、寮役員の方、忙しい中で本当によく動いてくださったと思います。この活動の中で、より縦のつながり横のつながりが強くなったのではないのでしょうか。

最後となりましたが高専祭に協力くださった寮食堂の方、先生方、寮務の方、本当にありがとうございました。

そして、たこ焼きを買ってくださった方、買われなかった方、来年は今年以上に良い品質のたこ焼きを作れるように努力しますので、どうぞご期待ください。



寮内清掃の感想

1A 坪倉 那奈

女子寮では1ヶ月に1回、1年生と2年生で寮内の清掃しています。学習室や捕食室、お風呂などみんなで使う所の掃除をします。

今回、わたしは洗面所の掃除をしました。洗濯機の下や乾燥機の上など、普段なかなか掃除するのが難しいところを集中的にしました。いつもは、注意して見ないので分からなかったけれど、掃除をする前に見るといっばいほこりが出てびっくりしました。だから、一生懸命拭いたり、はいたりしました。そうしたら、綺麗になりました。掃除をし終わると寮が明るくなったように見えたし、なによりもすがすがしい気持ちになりました。

寮内清掃や寮のいろいろな行事を通して、共同生活の大変さを知りました。でも、それは自分を成長させるための、とてもいい経験になっていると思います。これからも寮行事が自分を成長させてくれると信じ、一つ一つの行事を大事にし、全力で取り組んでいきたいです。



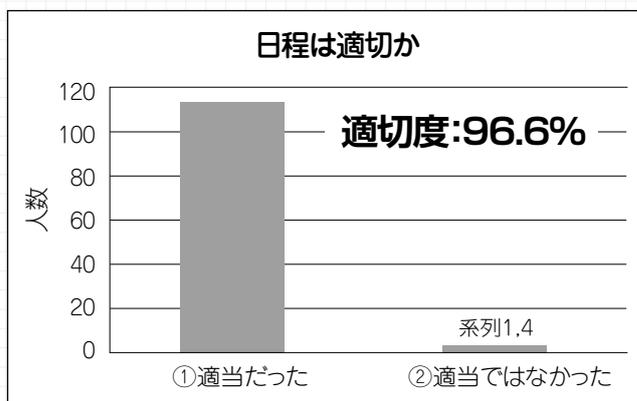
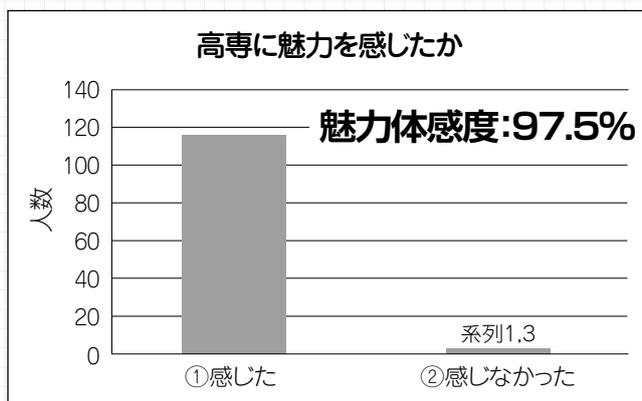
第2回オープンキャンパス（学校見学会）

11月17日（土）に中学3年生を対象に第2回オープンキャンパスを開催しました。中学生110名、その他保護者、引率者約53名という多数の方々に参加していただきました。

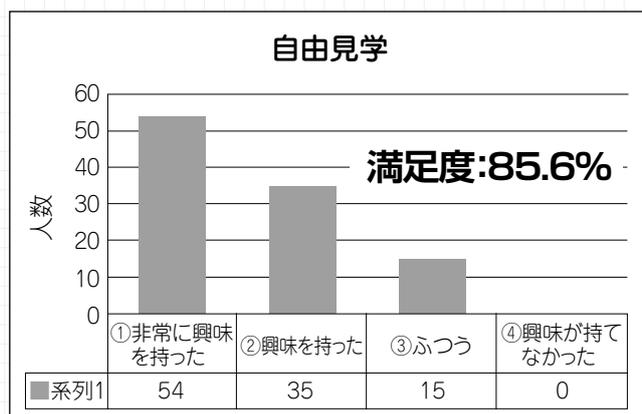
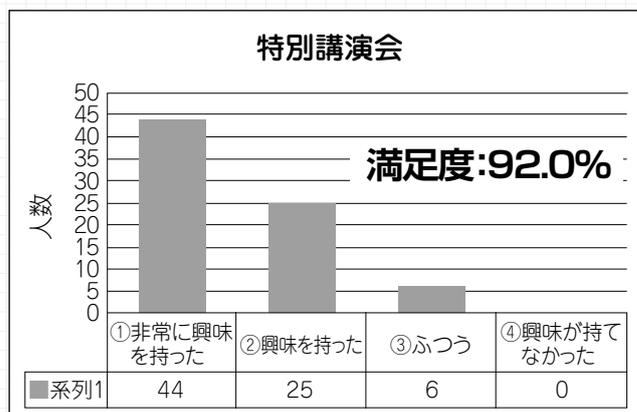
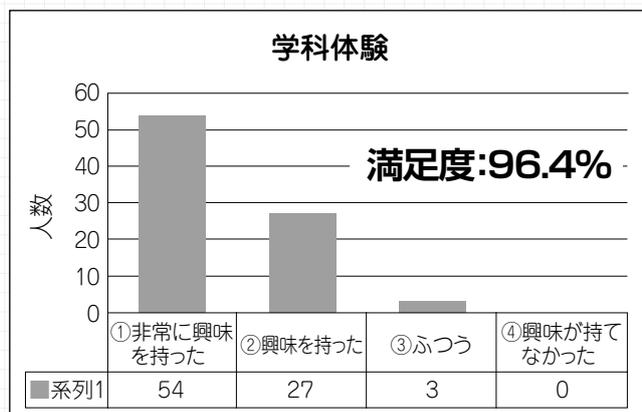
まず、学校・学科の概要説明を行い、その後新しい企画として特別講演会を行いました。特別講演会の講師は東京高専専攻科を卒業され現在NTTコミュニケーションズ勤務の藤原亜希子さんで、高専の魅力について中学生にわかりやすく話してくださいました。

また、昼には食事休憩を兼ねた校内自由見学を行いました。なお、そのとき学生会役員にガイド役をつとめてもらい、参加者の皆さんから好評をいただきました。続いて、学科体験を実施し、希望者には寮の見学もしていただきました。当日の様子をアンケート結果と合わせてお知らせします。

- アンケートの結果、米子高専への満足度は約98%、また、オープンキャンパスの開催時期が適切であるという回答は約97%にのぼりました。



- アンケートでは学科体験などの満足度も答えてもらいました。その結果、学科体験の満足度は約96%、特別講演会は約92%、自由見学は約86%となり、このことからオープンキャンパスが大成功であったことがうかがえました。



特別講演会

第9回高校化学グランドコンテストで文部科学大臣賞を受賞!

物質工学科 谷藤 尚貴

昨年度の文部科学大臣賞受賞の感動から一年が経ち、今年も同時期に大阪市立大で行われた高校化学グランドコンテストで本学科の学生が昨年に続く連覇を果たしました。今回の大会は全国から過去最高の59件の応募数があり、第一段階として9月に提出した研究成果レポートによる書類審査が行われ、最終審査会進出者として10件が選抜されました。次に11月4日の発表会では口頭プレゼンによる審査が行われ、今年のテーマである卵の殻のリサイクルによる燃料電池材料の開発で、3C大江ひかるさん、井田健太郎君、西尾幸祐君の三名が行ったプレゼンが最高評価を得ました。本年度の学生も昨年同様に夏季休業と大会までの放課後の大半を研究活動に注ぎ、発表のために必要となるデータを夏休み中に一生懸命蓄積させました。私はその成果が最優秀賞入賞で報いられたことに、指導者として嬉しさと同時に安心感が生まれました。最近の言葉は「楽をする」と「楽しむ」が同じ意味で捉えられている傾向は強く、中途半端な取り組みを表に公開することに恥ずかしさを感じない人は少なくありません。その風潮の中で、今回参加したメンバーは真の科学現象を追求する「楽しさ」を経験して、見つけた現象を聴衆へ分かりやすく説明する努力を惜しませんでした。これらの事実が高校生による化学研究全国一の地位を得る結果に繋がったと、私は分析しています。今後も学生の要望があれば、全国・世界レベルで研究を競える場を提供していきたいと考えています。



3C 西尾 幸祐

僕たちがこの活動を開始したのは今年の春です。これまでに同好会で行われていた研究に興味があって加入したものの、初めのうちは去年先輩が優勝しているので今年の優勝はさすがに無理だと思っていました。しかし、夏休みの初めに今年度の研究成果を決定づける大きな発見が出たために、夏休みを実験に捧げ卵と毎日過ごしました。何度も何度も様々な条件の燃料電池を作り、実験の終わりは夜中になることがほとんどで、昼も夜もごはんは卵だけの苦勞の日々が続いたのを思い出します。当日の発表と質疑応答はしっかりできたはずですが、終わってみると緊張で何を話したか覚えていません。また、自分らの発表が終わった後の灘高生の発表は質疑応答の次元が違い少し不安になりましたが、審査結果発表で2位の学校名を聞いた瞬間に僕らが最優秀賞であることを確信できました。最後に、ご指導いただきました谷藤先生と卵の殻を頂いた寮食堂、ご支援いただいた全ての人にお礼申し上げます。

第28回若手化学者のための化学道場2012で優秀ポスター賞を受賞

5C 門脇 遥奈

9月7日、8日に行われた第28回若手化学者のための化学道場(鳥根2012)にてポスターセッションを行い、優秀ポスター賞をいただきました。発表内容は「フェルラ酸及び配糖体のラジカル捕捉能と抗菌活性に関する研究」でした。

化学道場の参加者は主に中四国の大学生・大学院生であり、高専からは私を含め、本校の梗間研究室の2名が参加しました。大学の先生方や一般企業の研究員の方の指南講演では、化学における様々な分野の研究についての発表や実験のコツなど、大変貴重なお話を伺うことができました。発表後には恒例の懇親会があり、同じ化学分野へ進んでいる学生同士、意気投合し、楽しい時を過ごしました。

化学道場を通して、自分の知識の未熟さや研究の問題点に気づくことができました。さらに、一朝一夕には成し得ない目的を達成するために、日々努力して研究を行っている方々が大量おられることを改めて実感しました。有機合成の研究は、夜遅くまで実験をしなければならなかったり、難題にぶつかったりすることも多く、楽とは言えませんが、気持ち新たにこれからの研究に励みたいと思います。

最後になりましたが、指導していただいた先生方、今後の研究についてアドバイスをくださいました大学の先生方、化学道場の運営に携わられた多くの方々、そして研究室の学生の皆に厚くお礼申し上げます。



大学・研究所見学に参加して

物質工学科 梗間 由幸

8月27日に学生12人(3C11名、4C1名)を連れて奈良女子大学、京都大学生存圏研究所の見学に参加した。奈良女子大学では標本室の見学を行い、日本で奈良女子大学しか置いていない標本サンプルを大学院生に説明してもらった。参加した学生は目を輝かせて標本棚を見ていた。京都大学は研究所を見学した。学生たちは、所内の規模の大きさに圧倒されたようだった。京大の先生から研究所内の地下にあるシロアリの飼育施設など貴重な施設の見学をさせていただいた。見学会が終わった後、学生からは高専も実験設備が整っていると思っていたが、大学、研究所が有する実験機器の多さに驚いたと感想を述べた。

第一線で活躍する研究者と話をし、また世界最高峰の研究環境に触れることで相当な刺激になったと思う。夢を具体化するためにも、日々の勉強を精一杯頑張ってもらいたい。



生存圏研究所(京都大)にて

日本高専学会第18回年会講演会で2件の優秀ポスター賞を受賞

S1 荒木 優一、S2 富谷 真吾

8月25日に近畿大学工業高等専門学校にて日本高専学会第18回年会講演会が開催されました。その中のポスター発表で専攻科生産システム工学専攻1年荒木優一、同2年富谷真吾(ともに電気情報工学科 田中研究室所属)の2名が、それぞれ優秀ポスター賞を受賞しました。発表内容はそれぞれ「高温前処理法によるBi系高温超伝導ウィスカーの育成と評価」、「Bi系高温超伝導ウィスカーにおける触媒補充効果」です。

【富谷】 米子高専の学生として最後の年に、日本高専学会で賞を頂けたことはとても光栄に感じます。この受賞は田中先生の研究および発表に関する熱心なご指導や、パートナーの電気情報工学科5年角浩志君、また同じ研究室の学生の協力があったからこそ結果です。今回、賞をいただいたことを励みに社会人として米子高専の名を汚すことの無いよう来年から頑張っていきたいと思えます。

【荒木】 この度、第18回日本高専学会にて「高温超伝導体においてその成長効率を改善することに成功した」という内容でポスター発表を行い、優秀ポスター賞という名誉ある賞を頂きました。本学会では、特に苦勞したことが異分野の方への発表です。まず、私の研究に興味を持って頂くため、現在の問題点とその改善による効果は明確に、実際に問題点の改善に成功したことは簡潔に説明しました。これは、問題点とその改善による効果を明確にすることで、研究意義を理解して頂くためです。その後、実際に問題点の改善に成功したことを簡潔に説明し、聞き手が違和感無く理解できるよう心がけました。このように、本学会では研究内容を明確に、そして簡潔に伝える術を知るといった貴重な経験を積むことができました。また、今回の受賞で優秀ポスター賞を2年連続受賞することができましたので、来年は最優秀ポスター賞を受賞できるよう、今後も引き続き精進します。

今回の優秀ポスター賞受賞は発表者の努力だけでなく、指導教員である田中博美准教授のご指導や同じ研究室の仲間の協力による結果であると感じております。この場を御借りして、厚く御礼申し上げます。



豊橋技術科学大学－高専連携教育研究プロジェクト学生成果報告会で2件の優秀発表賞を受賞

C5 横山 聡美、S1 荒木 優一

8月9日に豊橋技術科学大学にて高専連携教育研究プロジェクト学生成果報告会が行われました。本研究発表会は豊橋技術科学大学から共同研究助成を受けている高専の研究グループが集まって、豊橋技術科学大学と共に成果報告を行ったものです。発表は全部で65件ありました。その中で物質工学科5年横山聡美(物質工学科 梗間研究室所属)、専攻科生産システム工学専攻1年荒木優一(電気情報工学科 田中研究室所属)の2名が優秀発表賞を受賞しました(優秀発表賞数:計6件)。発表題目はそれぞれ「自己防御物質クリマコストールの作用機序解明を指向した蛍光プローブの創製」、「Bi系高温超伝導ウィスカーの育成における触媒補充効果」です。

【横山】 私にとって初めての学会発表であり、このような賞を頂けるとは思っていませんでした。ポスター発表では、大学や高専の先生方に今後、研究を行う上での貴重なアドバイスを頂いたことで、問題点に気づくことができ、非常に良い経験となりました。この受賞は、日頃ご指導頂いている梗間先生、研究室の先輩方の成果、研究室の仲間の協力があったからこそ成し得たことです。これを励みに、より高い向上心をもって研究に取り組んでいきたいと思えます。4月から社会人になるので、発表する機会は限られていますが、残りの学生生活を有意義に過ごしていきたいと思えます。

【荒木】 今回、私は高温超伝導体における成長効率の改善について研究発表を行いました。本研究発表会では、1件の発表につき、4分間のショートプレゼンテーションと1時間のポスターセッションを行う必要がありました。その中でも、私はショートプレゼンテーションの練習を重点的に行いました。4分間という短い時間で聴衆に研究内容を理解して頂くことは非常に困難です。そこでスライド中の文字数を極力減らし、図解によって聴衆の理解を促すスライド構成と発表を心掛けました。この心掛けが本研究発表会における受賞の鍵であったと思えます。本研究発表会での経験を次回に生かせるよう、今後も精進したいと思います。

最後になりましたが、実験および発表準備の際に指導して頂いた先生方、学生の皆様へ厚く御礼申し上げます。



理系女子の増加を目指して

物質工学科 梗間 由幸

平成24年度に理系女子を増やす試みとして「そうだ!理系に行こう。理系女子(ri-girl)増加のためのファイブステップ」という活動を行っています。

これは、科学技術振興機構(JST)のバックアップで行われています。

日本は先進国の中でも女性の技術者、研究者が少ない国です。この理由は理科教育のやり方や社会構造上の問題などが挙げられます。しかし産業・工業界では女性の細やかな感性が、製品のデザインや分析技術に活かされると考えられています。問題を解決するために理系へ進路選択をしてもらうこと、理系の仕事を知ってもらうことが重要と考えます。

そこで、本校在学中の女子学生が出身中学校で理系の面白さを語る講演会を行いました(7中学校にて実施)。中学校の先生から卒業生が母校に帰り後輩のために話をしてくれて有難いと感想をいただきました。中学生、中学校の先生に対してアンケートを実施した結果、好評でした。理系の仕事を知るために、近代的な装置が並ぶ大山乳業と昔ながらの設備をもった大谷酒造を見学しました。酒蔵での体験実習では参加者から職人さんの仕事に触れることができ参加してよかった、理系の仕事が生活と深く関わりがあることを知りましたと感想をいただきました。

現在、社会で活躍中の理系女子を学校に招いてリケジョcaféを展開中です。今後とも宜しくお願いします。



白衣を中学生に着てもらっている様子(箕敷屋中にて)

テマセク・ポリテクニク技術英語研修を終えて

D5 内藤 寛晃

英語による論文の執筆やプレゼンテーション・スキルの取得、そしてシンガポールの学生との交流を通じて異文化を理解するために2012年9月8日(土)～9月23日(日)にかけて、同国にあるテマセク・ポリテクニク(TP)で行われた技術英語研修に参加させて頂きました。今回の研修では、TPの先生方による授業を受け、実際に論文やポスターを書き、共に参加した他の高専生、引率教員の方々の前でプレゼンテーション等を行い、また異文化理解の一環としてTPの学生と共にシンガポールにある文化的な旧跡や市街地などを訪れました。

授業は英語で行われたのですが、始めは聞き取れないことが多く「授業を聴く」だけでも私にとってかなり大変なことでした。更にそれに加えて、論文の執筆では単語数の指定があり、基準を満たすことは簡単なことではありませんでした。しかし、その十分とは言い難い内容の論文でも、TPの先生方からのフィードバックを受け、これから繋がる意見やアドバイス等を頂くことができ、論文に限らず、英語による文章作成の手順を体系的に学ぶことができました。

またTPの学生との交流では休日、彼らが頻繁に訪れるというショッピング・モールへ行き、屋上のスペースで座りながら互いの国の文化、例えば、私の趣味でもある音楽等の話をしました。打ち合わせなしでTPの学生とダンスをした高専生も居て、何か一つでも海外の人と共感できるような趣味を持っていることは、交流のきっかけと成り得るのだなと感じました。

本研修で学んだことを将来に活かせる様に、これからもコミュニケーション能力の一つとして英語を勉強していきたいと思いました。



スイス留学体験記

D3 植松 誠志

現地には沢山の価値観や、幅広い個性を持った人がいた。自分もその一人であったと思う。でも、周囲から批判や軽蔑されることは少なく、むしろ逆に自分にはない個性を持つ人から何かを学ぼうなどの肯定的な考えが多かった。批判がないというわけではない、少なくとも批判という場合は、必ず直接発言者に向かって言う。これがスイスだ。これは余り日本では見受けられない光景だと思う。

さらにスイスでは、学校生活において授業中に意見を言えない人は、無能な人間と思われる。それに関しても日本の学校とは少し異なっていた部分であると思う。たしかに、最初の方は戸惑いもあったし、ホスト・ファミリーとの会話もまるで分からなかった。ある時、イタリア人の女の子に「あんた英語勉強したら」を学校で突然言われたときには、かなりショックを受けた。あの言葉は留学が終わっても忘れられない思い出になっている。逆にあの言葉のおかげで語学が上達したところは否めない。正直この一年間に落ち込んでいる暇はなかったし、そのような環境で一年間過ごし学んだ時間は、とても価値あるものだったと思う。

留学を通して学んだことは、こころの持ち方で語学を学ぶことよりもはるかに大切だった。語学はもちろん大切だけど、だれだって最初は上手くいかない失敗の方が多い、でもそこから次につなげないといけない。中間テストで失敗したら、二ヶ月後の試験までに勉強して取り戻せばいい、だから心に「まだ試験まで日にちがあるから勉強をしなくていい」などの妥協がうまれる。でも留学生活では毎日がテストの様、毎日友達、家族とコミュニケーションをとって、積極的に学んで行かないといけない。そうでないと、毎日言葉が理解できない時に起こる激しいストレスに襲われる。

だからいくら英検準一級を持っていても、友達はストレスで挫折した。僕は、留学生活で一番大切なのはいまでも語学力よりも、自分の個性と積極性が大切だったと思う。かなり辛い時もあったかもしれないけど、友達や家族に支えられたお陰で乗り切ることができた。改めて感謝を言いたい。

So viel Erinnerung hat ihr mir gegeben, nochmal ich sagen möchte. Danke schöne.

そこは僕にとって一つの故郷になったし第二の家族の様な存在でもある。一年を通してそこから得られた経験はお金には変えられない物だった。



Asia Science Camp2012に参加して

C5 浅中 美有 / C5 横山 聡美

8/24～9/1にイスラエルのヘブライ大学で行われたAsia Science Camp(以下ASC)に参加しました。卒研担当の榎間先生から応募するように言われて提出まで4日間と時間が無かったのですが書類選考に合格することができました。

ASCはノーベル賞学者や世界のトップレベルの科学者による講義やディスカッション・セッションを通して科学の面白さを学んだり、学生同士の交流を深め合ったりすることを目的としており、アジアの学生266人が参加しました。現地では14名程度のカラー・グループに分けられ、大学内やツアーなど、移動の際は常にカラー・グループでの行動でした。日本人が1人だけという環境に対して不安でしたが、気づくと、ホテルに帰ってからも外国人の友達とずっと一緒に話している自分がいました。

講義については、英語が速すぎてほとんど聞き取れませんが、パワーポイントに映し出される図や単語を見ると学校の授業で学んだことの応用であり、理解できる部分もありました。

最終日のプログラムに自分たちで科学に関連するテーマの一つ決め、問題点や解決策などを紹介するポスター発表がありました。ポスター・グループも決められており、8人で毎晩騒ぎながらポスター制作に励み、「HIV Treatment-It's Possible!」というテーマでプレゼンを行いました。優秀賞は逃しましたが、それぞれ国の違う8人が出会い、仲良くなれたことをとても嬉しく思いました。

今まで英語は「将来のために勉強しないとイケないもの」と考えていました。しかしASCに参加し、「英語をもっと勉強したい、話したい」と思うようになりました。またたくさんの友達ができたこと、すごく大切な出会いがあったこと、ASCでの思い出は私たちにとって本当にかけがえのないものとなりました。「また絶対に会おう」という約束を胸に、英語の勉強に励んでいます。

環日本海拠点都市大学生交流事業への学生派遣

特任主事（国際交流等） 香川 律

環日本海圏域（日本、中国、韓国、ロシア）の首長が一堂に会し拠点都市間の経済・国際交流を拡大する目的で協議を行う「環日本海拠点都市会議（平成6年から）」会員である米子市及び境港市が募集する「環日本海拠点都市大学生交流事業」派遣メンバーに、本校電子制御工学科5年生の渡邊尚之君、長戸誠良君、渡邊直紀君、井田牧人君が選考され、県内大学生8名と共に、9月4日～7日の日程で韓国・東草市（ソクチョシ：米子市との姉妹提携都市）を訪問し、韓国の大学生たちと東草市庁や主要産業施設の視察、統一展望台、DMZ（非武装地帯）博物館の観覧、雪岳山（ソラクさん）ハイキングやその他観光地を巡るなど韓国への見識を広め、韓国大学生たちとの親交を深めました。この大学生交流事業は今回で2年目ですが、来年はロシア・ウラジオストク市で開催予定です。



米子市長への帰国報告



境港市長への帰国報告

D5 渡邊 尚之

私は9月4日～7日の4日間、海外交流事業で韓国の東草市という場所に行き、現地の大学生と交流させて頂きました。体験した事の全ては書ききれないので2つの事に関して書きます。

まず会話についてです。日本と韓国の学生間の会話は基本的に英語を使用しました。私にとって英語を使用してコミュニケーションをとる機会は今回が人生で初めてでした。ある程度は雰囲気伝わるとは思いますが、何度も「多分、少し違う意味で伝わってるな」と感じる場面がありました。しかし学生の間には英語の必要性を身を持って痛感できたのは大きな収穫でした。

次に、異文化体験を通して感じた事です。今回の旅では大学訪問、重要産業施設の見学など、内容の濃い体験をさせて頂きました。中でも印象深かった場所はDMZと呼ばれる韓国と北朝鮮の国境線です。普段の生活の中で、国境線という言葉に親しみがなかった為、実銃を持った軍人が沢山いて物騒だと感じました。けれど、施設見学を通して、最悪の場合、戦争の引き金にもなりうる場所である事を知り国境線という言葉の重みを知ることができました。

最後に、普段なかなか交わる事のない別分野の学生と話せた事も良い刺激でした。今後も、様々な人との関わりを大事にしていきたいと改めて思う旅になりました。



東草市にて

D5 渡邊 直紀

私が今回の事業に参加しようと思ったきっかけは、私の専攻したい分野は、アメリカの大学で盛んに研究が行われており、大学院からはアメリカで勉強したいと考えているので、少しでも多く海外に行くことを経験した方が良いと思ったからです。そして今回が私にとって初めての海外であり、また竹島問題がニュースで大きく報道されている時期であったため正直な気持ちは不安で、今回の交流事業を無事行えるのかと韓国行きの飛行機の中で考えていました。

仁川空港に到着すると東草市の大学生、市の職員の方々と通訳の方が私たちを迎えてくださり、それから最終日まで優しく接していただきました。そして最終日には私たちが韓国の焼肉を食べていないことを韓国の学生の方が気遣ってくださり、市の交流プログラム終了後に焼肉に連れて行ってくださいました。韓国の焼肉がおいしかったこともありますが、韓国の学生の心遣いで本当に幸せな時間を過ごすことができました。

そして、今回出会った方々とはインターネット上のサービスを通じ今でもコミュニケーションを取っており3年後に再び交流をする約束をしています。今後私たちは国境を越えて一生涯付き合える友人になっていけると思います。



韓国と北朝鮮の併合を願うメッセージ (DMZ付近にて)

編集後記

デザインコンペティション2012において、今年も建築学科チームが構造デザイン部門で、6年連続して最優秀賞を受賞するなど優秀な成績を収めました。また部活動では、ヨット部が国体で優勝するなど、好成績が続いています。これからも学生たちの生き生きした姿をお伝えしていきたいです。

紙面へのご意見・ご感想を、メール（hikona@yonago-k.ac.jp）にてぜひお寄せください。

※記事中において、学科名をアルファベットで表している箇所があります。

M…機械工学科、E…電気情報工学科、D…電子制御工学科、C…物質工学科、A…建築学科、G…一般科目、S…専攻科 例え、 「1M」は機械工学科1年生を表しています。

発行：米子高専広報委員会

〒683-8502 鳥取県米子市彦名町4448 TEL: 0859-24-5023 FAX: 0859-24-5029 印刷：株式会社高下印刷
E-mail: hikona@yonago-k.ac.jp ホームページ：http://www.yonago-k.ac.jp/ →メニューより「キャンパスライフ」